【特別支援学校用】

令和6年度学校評価 結果

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀県立唐津特別支援学校好学舎分校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成した項目については、今後も取組を継続し維持しつつ、さらなる深化を目指していく。 ・生活態度の向上に関しては、分かりやすくルールを示して粘り強く進めていきたい。 ・転入生だけでなく、在校生も適切な指導及び支援について随時見直したい。
2 学校教育目標	児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」を育むとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 児童生徒の自立と社会参加を目指した教育活動の推進に努める。 ② 児童生徒のこれまでの成育歴や障害特性に配慮しながら、教職員が教育目標、教育活動について意思統一を図る。 ③ 分校に通う児童生徒の指導・支援について、教職員の専門性の向上を図る。 ④ 児童心理治療施設「好学舎」等の関係機関と連携し、支援体制の確立を図ることで学校運営を円滑に遂行する。 ⑤ 業務および組織の見直しを常に行い、働き方改革の推進に努める。

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着 ○家庭学習の定着: 課題に取り組み、提出する児童生徒70%以上 ○「個別の指導計画における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と回答した教員70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業への取り組みが向上した(理解度、授業を受ける態度など)と感じる児童生徒70%以上 ○家で学習の定着: 課題に取り組み、提出する児童生徒70%以上 ○「個別の指導計画における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と回答する教員70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に合わせた学習環境や学習形態などの工夫(ICT機種の効果的な活用や活動内容・時間の調整など個別の対応を可能な範囲で実施) ・自分で取り組むことができる課題の提供 ・自立活動に関する専門性向上に必要な校内研究及び職員研修を設定し、効果的な指導及び評価を行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の授業を受ける態度などが向上したと回答した教員が100%、保護者が83% ・100%に近い家庭学習課題の提出ができた。 ・「個別の指導計画における自立活動の指導及び評価が適切に行われた」と回答した教員が92%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者評価83%で比較的高い評価を受けている。 ・高評価が得られて素晴らしいと思う。少人数の指導を行っているからこそ、一人一人の真のニーズにも着目することを大切にしてほしい。 ・教員、保護者、共に高い評価であるが、児童生徒自身がどう感じているのかの観点も大切と感じる。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○他者との接し方を含めた生活態度が向上した児童生徒60%以上 ○自分の行動を振り返り、思いを適切に話せるようになったりした児童生徒60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の様々な場面で、教師が手本となる行動を示す ・児童生徒の思いを表しやすくなる場の設定や関わり方を行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童生徒は、他者との接し方を含めた生活態度が向上した」と回答した教員が100%、保護者が78% ・「児童生徒は、うまくいかなかったことを振り返ったり、自分の思いを適切に話せるようになった。」と回答した教員100%、保護者74%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実施結果で70%以上確保され、指標は達成されている。 ・生活環境などの背景により、様々な難しい面があるとと思うが継続して取り組んでほしい。 ・障害特性上、一番難しい内容であるが、力を入れ取り組んでほしい。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめの防止や対応等を理解し、組織的に行うことができていると回答した教員100%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する研修を年2回以上実施 ・いじめの認知・認知の観点から、児童生徒の様子を正しく見取り、教師間の情報共有を密に行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめの防止について理解し、組織的に対応した」と回答した教員77%、保護者97%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童生徒の心理的ストレス解消に努めてもらいたい。 ・迅速な対応を心がけてもらうようお願いしたい。 ・職員はもちろん、児童生徒にも様々な場面で指導する機会を設けることが好ましい。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい生活習慣の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●毎食後に「自分から歯磨きを行っている」と回答する施設職員80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の健康に関する意識向上を図る取り組みの実施 ・保健だよりの定期的な発行 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「歯の健康を意識して歯磨きをしていた。」と回答した教員92%、保護者91%。 ・長期休業前に保健だよりの発行をした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全身疾患に関わる歯の健康を取り上げていることに感心した。 ・衛生面や環境面に意識が向く配慮がなされている。 ・目的意識をしっかり維持しながら今後も継続して取り組んでほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●時間外在校等時間を前年度より減らす。 ●年休14日以上の取得。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好学舎との細やかな情報交換、情報共有の実施 ・児童相談所への連携強化のための啓発(ケース会開催の依頼) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間は、年度前半は昨年度比で増加傾向だったが、後半は減の傾向となっている。 ・会議内容の事前周知や資料の精選による会議回数や時間短縮 ・年休の取りやすい環境を醸成する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大変な業務の中ですが、先生方の自身の健康管理も大切にしてほしい。 ・児童生徒と向き合うためにも、心身の健康や業務の在り方に配慮してほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度	実施結果	評価	意見や提言
○関係機関との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○児童相談所や関係学校、好学舎との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童相談所との情報共有のケース会等の1回以上の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・好学舎との細やかな情報交換、情報共有の実施 ・児童相談所への連携強化のための啓発(ケース会開催の依頼) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童に対して、関係機関を交えてのケース会を行うことができた。 ・好学舎職員との合同会議、毎日の情報共有を行うことができた。 ・「転入時に引継ぎができた」と回答した教員が77%、引継ぎ自体は行っているが、今後もより良い引継ぎとなるよう工夫を行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校の関係よりも見相を含めた関係機関との連携が重要だと感じた。今後も関係機関との連携推進に努めていきたい。

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成した項目については、今後も取り組みを継続しつつ更なる進化を図っていく。 ・児童生徒、教職員が安心して充実した学校生活を送ることができるよう、学校環境づくりを行っていく。 ・児童生徒に対し、教職員間で情報共有、指導法の共有などの徹底を図る。
----------------	---

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育